

日本脳炎予防接種説明書

接種対象・接種間隔・・・

【1期】 生後6か月～7歳6か月になる前日までに3回

(※生後6ヶ月から接種自体は可能ですが、標準的には3歳から接種します。)

○6日以上の間隔をあけて2回(1期初回)接種し、2回目から約1年あけて3回目(1期追加)を接種します。ただし2回目から6か月以上の間隔をあけると3回目を接種できます。

※通常0.5mlを接種しますが、3歳未満の方が接種する場合には、接種量が0.25mlとなりますのでご注意ください。

【2期】 9歳～13歳未満の間に1回 ・・・計4回



勸奨差し控えによって完了していない場合(4回で完了)



対象者(平成7年4月2日生～平成19年4月1日生)

- 1期初回を一度も受けていない場合：6日以上の間隔で2回接種し、約1年後に追加を接種。
 - 1期初回をH23.5.20までに1回接種している場合：6日以上の間隔をおいて2回接種。
 - 1期初回をH23.5.20までに2回接種している場合：追加を1回接種。
 - 2期を受けていない場合：1期追加接種から6日以上あけたら接種可能。
- ★20歳未満の期間に接種可能です。

副反応

局所の反応としては、紅斑、内出血、疼痛、腫脹、そう痒感がみられます。全身の反応としては、発熱、発疹、じんましん、頭痛、咳嗽、咽頭発赤、咽頭痛、嘔吐、下痢、食欲不振、腹痛があります。ごくまれに、ショック、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、脳炎・脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病が報告されています。

ワクチンの特徴

日本脳炎ウイルスをアフリカミドリザル腎臓由来株化細胞で増殖させ、得られたウイルスを不活化したものの。

日本脳炎とは・・・

ブタの体内で増えたウイルスが蚊(コガタアカイエカ)を媒介し感染します。感染すると高熱、頭痛、嘔吐、意識障害及びけいれん等の症状を示す急性脳炎になります。感染者のうち100～1000人に1人が脳炎を発症すると考えられています。